

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100841		
法人名	社会福祉法人 永生会		
事業所名	グループホームもえぎ		
所在地	大分市大字猪野729番地1		
自己評価作成日	2021年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同建物内に8事業所設置しているため、連携をとりながらその方にとってより良いサービスを提供することができる。
 今までの生活を継続していただけるように家庭的な雰囲気を大切にし、日常の家事にもできるだけ関りをもっていただけるように職員がサポートしている。孤独を感じないようにできるだけホールに出て過ごしていただけるように、家具の位置、温湿度、清潔感などに気を配っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の認知症の中核症状に対して、根拠に基づく解決策が考えられ、支援に繋がっている。
- ・利用者の認知症のBPSDが、職員の経験やアイデア・粘り強い支援により、改善が図られている。
- ・日々の利用者支援や利用者の情報の共有、研修の充実など、法人の協力体制が整っている。
- ・心地よい音色の玄関チャイムや備品が、事業所の穏やかな雰囲気づくりに役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、家事の手伝いや活動などで家庭的な雰囲気を感じていただけることで、これまでの生活を継続していただけるように、職員間で話し合いを持ちながら実践につなげている。	母体法人理念を基に、理念を具体化した「施設の目的」を掲げ、地域交流や利用者の個性を大切に支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が難しい年であったため、運営推進会議や手紙にての地域の方への活動報告、活動予定をお知らせしている。	認知症の専門職として、入居希望の家族や相談者に対し、認知症の人への対応や介護事業者に対する伝え方のアドバイスをを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来た方、申し込みに来た方の悩みや相談にのったり、入居者のご家族への状態報告の際に不安や疑問への相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の活動報告、活動予定、不適合サービス等をお知らせし、会議が開催できなかった場合は郵送にてお知らせし、ご意見をいただきGH内で話し合い検討を行っている。	コロナ禍の今年度、定例の会議が出来なかった時期は、運営推進会議資料を作成し、委員に送付、意見を聞き取り、議事録にまとめ、行政に報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、活動報告、予定、不適合サービスの報告を行っている。会議後には、話し合いの内容についても市に提出している。	大分市から送付されたコロナ禍についての資料は、感染予防や対策に活用している。事業所運営や活動を詳細に報告しており、情報の共有が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で研修を行い、身体拘束について職員全体が正しく理解できており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症や加齢によるリスクを伝えうえで、身体拘束をしない事を明言している。利用者が閉塞感や不自由さを感じることなく、居心地よく安全に過ごせるケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内にて虐待についての研修を行い、正しく理解できるように努めている。また、管理者が同じ業務を行うことで職員との問題が共有でき心身の状態の変化にもすぐに対応できることで危険防止ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学び、ご利用者またはそのご家族が必要とされる場合は制度について説明を行い、関係機関への橋渡しができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、個別に対応を行うことで信頼関係が築けるように努めている。不安、疑問点に対しても、その都度的確な説明ができるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は家族会は中止となり、運営推進会議も中止となるが多かったが、ご家族へのアンケートを実施し、ご意見ご要望をお受けし職員間にて話し合いを行い、運営推進会議の構成員には書面にてお知らせした。	家族アンケートを取り、「面会できず、利用者の様子が解らない」という家族からの意見に対し、事業所行事や利用者の日常の写真を掲載した便りを送付し、家族からの個別相談にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて話し合う事の他に、日常の業務に管理者が入ることで利用者や職員の実情を把握し、問題の改善に努めている。	毎月開かれる職員会議では、主に利用者支援についての話し合いが行われ、職員間での共有も図られている。職員の知識や経験が困難事例の解決策として実践され、解決が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、少なくとも半年に1度は面接を行い、個々の職員の状況、実情を知り、各自が向上するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には必ずユニット内より出席するようにし、出席できない職員には書面にてまたはユニット内で研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム管理者と話し合う場を作り、情報の共有や相談を行い問題解決に務めている。また、法人内の他事業所の職員との意見交換を行いサービスの向上に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で、ご利用者の情報を共有しいつもと違うご様子が見られる場合は早急に話し合い対応を改善し共有することで問題の解決につなげ安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には、ご家族との話し合いに十分な時間をとり対応にも気を付けながら、安心して入所していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスが必要な場合は、その必要性について納得していただけるように説明をし、ご本人、ご家族の意見も聞き入れながら調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日用品など必要な物がある場合は、ご家族に連絡をし用意していただくことで疎遠にならないようにしている。その際、必ずご利用者の様子をお知らせするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日中はできるだけホールにて過ごしていただけるように声掛けを行い、他利用者と一緒に家事や活動を行うことで活気のある生活を送っていただき孤独ではないという安心感を感じていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご利用者のご希望される場合は、面会や外出にも応じている。また、日常の会話の中での思い出話などをご家族にお知らせすることで、関係が途切れないようにご協力いただいている。	コロナ禍での自由な交流が出来ない状況が続く中、自筆や写真・塗り絵を活用した、その人らしい年賀状を送っている。帰宅願望の強い利用者は、感染対策を図った上での家族との外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活にて、ご利用者同士の関係に注意し、関係性の変化が見られた場合には席を変えたり声掛けを行ったりと良い関わり合いができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先への情報提供を行い、終了後も相談を受けた場合には、一緒に考えご利用者が安心して暮らせるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係が築けるように日常生活の中でコミュニケーションを多くとり、ご利用者の言葉に耳を傾けるようにしている。不確かな場合はご家族へ相談したりと把握できるように努めている。	管理者がアセスメントを取っている。家族と話し合い、担当職員が把握した利用者の情報や思いは、職員間での共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートに目を通しその方の生活歴等を把握している。また、ご本人、ご家族よりの情報は職員間で共有しその方に合ったケアや活動を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の利用者に担当職員を決め、担当は特にその方の身の回りの事やご家族への連絡など気を付けている。気になることがある場合はすぐに職員間で話し合い改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録シートに計画を記し毎日チェックを行っている。できなかった事に対しては話し合いを行い、改善のための案を考えている。	担当者会議を基に介護計画を作成している。計画の内容は毎日の支援計画に記載されており、モニタリングに繋がっている。1か月ごとに評価、6か月での見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートを毎日記入している。いつもと違う様子が見られたり、共有したい情報などはすべて記入し共通したケアができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を把握し、医療や他事業所と連携をとり、より良いサービスを提供できるように取り組んでいる。また、職員が小規模多機能型サービスとの兼務であり、活動や行事などを合同で行う事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議中止の場合でも、書面にて民生委員や地域包括センターへの活動報告を行いつながりが途切れないようにした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関を受診していただいている。受診の際には状況報告を行い医療機関よりの質問にも答えている。	利用者・家族の希望する掛かりつけ医となっており、受診は家族対応となっている。コロナ禍により、家族希望で訪問診療での対応に変更した利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化、異常などに気付いた場合、すぐに訪問看護との連携ができるような関係を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療関係者との情報の共有ができるようにこまめに連絡をとり、より良い治療や退院後、安心してすごせるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と十分に話し合いを行い、今後の方針を考え、医療や他事業所との連携を図りながら支援していけるように取り組んでいる。	事業所利用開始時、希望すれば重度化・看取り支援を行う事を伝えている。状況の変化に応じての住み替えの相談やアドバイスも行っており、法人内での利用者の情報の共有が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を行いすべての職員が対応できるように取り組んでいる。また、緊急時のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行うことで確実な避難誘導ができるように備えている。また、職員研修を行うことで各災害についての知識を学んでいる。	火災・地震・夜間想定など、法人全体で年に複数回の訓練を行っている。法人の8事業所の食料や衛生品の備蓄は、地下に準備されている。前回の目標達成計画として日中・夜間のマニュアル作成も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で職員研修を何度も行い、一人ひとりの職員が日常のケアの中で常にきをつけるようにしている。気になることがあれば、職員同士で声掛けを行い改善していくようにしている。	日常の言葉遣いに気を付けている。利用者のBPSDに対する注意喚起や行動制止についての学びの場も持たれている。気になる言葉遣いなど職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、職員がご利用者の言葉に常に耳を傾け、思いや希望をくみ取れるような関係づくりに努めている。また、気になる言動はチーム内で共有し過ごしやすい環境をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを把握し、できるだけ一人ひとりに合わせた個別ケアをするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、服装など身だしなみについては、常に乱れがないように心がけている。ご本人のご要望にもできるだけ答えられるように、必要であればご家族にも相談している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい食事が召し上がられるようにグループホーム内で手作りし、すぐに食卓へお出ししている。テーブル拭き、セッティングなどの準備や片づけも手伝っていただいている。	母体法人の管理栄養士が立案した献立に沿って、隣接する小規模多機能事業所と協力して手作りの食事が作られている。おやつ作りや、家族からの好物の差し入れなど、食が楽しみの一場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食器やスプーンなどを状態によって工夫している。毎日の食事、水分量をチェックし摂取状況を把握し個別に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1か月に1度歯科衛生士による口腔ケア研修を受け、知識の向上に努めている。口腔内の状態や本人の力に応じたケアを個別に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じて個別対応を行っている。可能な限りトイレにて排泄していただけるように、失敗のないように声掛けを行ったり、排泄時の介助を行っている。	利用者の排泄サインを見逃さずトイレ誘導につなげたり、入居から放尿行為が続く利用者に根気よく対応することで、トイレでの排泄習慣が構築され、臭気改善にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排泄の状況を記録して排便の状態を把握できるようにしている。そのことよりその方に応じた対応を考え自然排便ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ無理強いすることなく、ご本人の希望に合わせて行うようにしている。羞恥心や恐怖心のないように、1人の職員が1人のご利用者に最初から最後まで対応するようにしている。	週2回の入浴を基本とし、4名の利用者がリフトを用いて入浴している。温泉が引かれた浴室で、介護度2～5の利用者全員がゆったりと湯船に浸かる入浴支援を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠状態を記録し、個々の状態に合わせた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の情報を用意し、いつでも確認できるようにしている。定期薬の変更があった場合は記録し職員間で情報の共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が好まれる家事や活動を一緒にさがし、生活の中での役割をもっといただくことで張り合いのある生活を送っていただけるようにしている。好きな飲み物やお菓子を家族よりお預かりし希望される時にお出ししている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外の行事には出かけることができなかったが、家族に協力していただき外食や外出をしていただいている。	事業所デッキに花を植え、椅子に掛けて外気を楽しんだり、敷地内に植えられた桃の花を觀賞して季節感を感じ、個別対応での散歩を楽しんでいる。感染対策を徹底し、帰宅願望の強い利用者が、家族との外出を楽しみ、穏やかに過ごす支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持がご希望の場合は、ご本人の状態などを考慮し、ご家族に相談の上考えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや面会の対応を行っている。年賀状をご家族宛に書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔を保っている。快適に過ごせるように、温湿度、音、明るさ、匂いなど常に気を配っている。テーブルや椅子の位置を考えたり、壁面の飾りを変えたりと生活感や季節感を感じていただけるようにしている。	定期的な換気や清掃、感染対策が行われている。換気中や事業所訪問時に聞こえる曲や音色は心地く、共用空間厨房から聞こえる調理音や香りが家庭的な雰囲気を醸し出している。利用者が穏やかに共用空間で過ごす環境づくりや工夫も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に決まった席は作らず、ご利用者の好きな席に座っていただけるようにしている。ソファも2ヶ所用意し、いつでも座ってくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れたもの、あると落ち着くものをもってきて良いこととお話し、ご本人が落ち着ける部屋作りをしていただいている。	ベッドや家具の配置を工夫した、安全に移動できる動線づくりや、トイレの場所認識の為、居室トイレのドアを開放するなど、心身の状況に合わせた環境整備により、安全に落ち着いて過ごせる居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態をみながら、家具や備品の位置を考えている。また、どのようにしたら自分でできるかと言うことを職員間で話し合っている。		